

飯村小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・当校は、地域、国際理解、環境、防災を柱に、①公園での木の実拾いや町探検に係わる活動（1・2年）、②地域の特産物であるサツマイモに係わる活動（3年）、③校区内にある岩屋緑地に係わる活動（1・4年）、④防災に係わる活動（5年）、⑤国際理解に係わる活動（6年）を行っている。

・活動の実際

① 校区内にある岩屋緑地に係わる活動（1・4年生）

里山を守るボランティア「岩屋緑地に親しむ会」の方と交流し、共に活動する中で、身近な自然、地域のよさやすばらしさを再認識することができた。

1年生は、親しむ会の方から岩屋緑地で見つけれられるどんぐりの種類を教えていただき、大きさや種類の異なるたくさんのどんぐりを採取した。生活科の時間にこまややじろべえなどを作り、友達と楽しみながら遊びを創り出すことができた。

4年生はグループで岩屋緑地を探検し、生息している植物・動物、建立されている銅像や歴史、岩屋緑地の魅力について親しむ会の方に説明を受けながら調べた。



岩屋緑地探検

今の魅力的な岩屋緑地を未来へつなぐために自分たちにできることを考え、イベントの企画や、新聞づくりなどを行ってきた。今後は、岩屋緑地の魅力を地域の方へ発信していく予定である。

② 地域の特産物であるサツマイモに係わる活動（3年生）

飯村の特産物であるサツマイモの作り方を校区の「おイモの先生」から学び、校庭農園にサツマイモを育てた。その世話を通して収穫の喜びを味わうとともに地域の人々との交流を図り、地域への愛着を深めた。また、種類や育て方など、サツマイモについて興味をもったことを調べ、まとめた。



収穫を楽しむ児童たち

③ 国際理解に係わる活動（6年生）

子どもたちは、「遠くの親せきより近くのアミーゴ」をテーマに掲げ、日本と外国では、文化や考え方に違いが多くあることに気づき、学習を進めた。どうしたら自校の外国籍児童とより理解し合うことができるのかをパワーポイントにまとめ、学習発表会で発表することができた。

活動を通して、自分たちの地域で暮らす外国籍児童の実態にも目を向け、外国の生活文化についての興味や関心を高めることができた。そして、国籍に関係なくみんなが、共に仲よく過ごせる地域にしていきたいと考えることができた。



学習発表会で発表する児童